

今年の春、東飯田（旧木の芽保育園跡地）にある、障がいのある方を対象としたグループホーム「ここのえ夢ホーム」に続き、「ここのえ夢ホーム2号館」が同敷地内に2棟目として開設され、3月28日（日）、運営を行う特定社会福祉法人大分県社会福祉事業団主催で落成式が執り行われました。

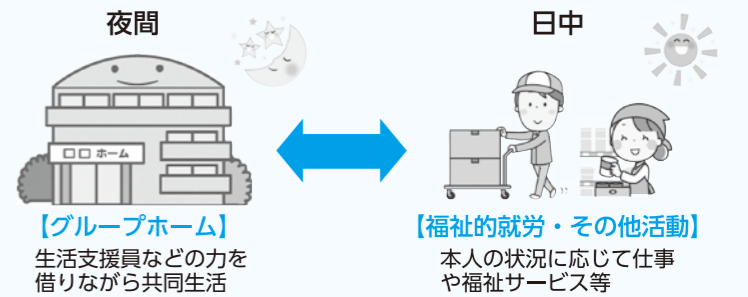


グループホームについてのお問い合わせ
特定社会福祉法人 大分県社会福祉事業団
地域生活支援センターはぎの (☎0973-24-2451)

障がいのある方、ご家族の方の今後の生活への不安を軽減し、住み慣れた地域で安心した生活を営むことができるグループホームとして障がいのある方々をサポートします。

●グループホームって？

障がいのある方が、世話人などの支援を受けながら、地域で少人数での生活する住宅のことを言います。そこを拠点に、障がいのある方の一人ひとりの「できること」を発揮しながら、社会参加を進めるとともに、共同生活をする中で自身の身体・精神状態の安定なども期待されます。



第85回 ふるさとの文化財探訪

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」。昔から言われてきた手入れ方法である。数年前、県内の桜天狗巣病のひどい名所が公表された（元県林業試験所―諫本博士）。大手術が必要になってくる名所のうち、玖珠郡では北山田駅が上がっていた。しかし昨年ごろから手入れがされた跡がみられ、2〜3年経ればかなり回復すると思われる。桜といえばソメイヨシノ（ヨシノザクラ）が一番人気で、多くの名所がある。ソメイヨシノはクローンからの標本木であり、開花予想もこの桜に決められている。しかし郡内のソメイヨシノは天狗巣病に罹ったものが多く、年を経るごとにひどくなっているようである。景観上問題ばかりか、桜の寿命の短さ、他の品種・種類にも影響が出ることを考えられる。国道210号線沿いで見かけるソメイヨシノ、神社の境内、町役場周辺、農協支所などに目立っている。若木はそれほど目立たないが樹齢を増すごとにひどくなる。

ソメイヨシノと天狗巣病

文化財調査員 佐藤 三千代

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」。昔から言われてきた手入れ方法である。数年前、県内の桜天狗巣病のひどい名所が公表された（元県林業試験所―諫本博士）。大手術が必要になってくる名所のうち、玖珠郡では北山田駅が上がっていた。しかし昨年ごろから手入れがされた跡がみられ、2〜3年経ればかなり回復すると思われる。桜といえばソメイヨシノ（ヨシノザクラ）が一番人気で、多くの名所がある。ソメイヨシノはクローンからの標本木であり、開花予想もこの桜に決められている。しかし郡内のソメイヨシノは天狗巣病に罹ったものが多く、年を経るごとにひどくなっているようである。景観上問題ばかりか、桜の寿命の短さ、他の品種・種類にも影響が出ることを考えられる。国道210号線沿いで見かけるソメイヨシノ、神社の境内、町役場周辺、農協支所などに目立っている。若木はそれほど目立たないが樹齢を増すごとにひどくなる。

文化財調査員も松岡公園のソメイヨシノの天狗巣病の手入れをしたことがあるが、何年か続けることが必要でしょう。しかし高い所は特に危険なので園芸業者に依頼すべきかと思われます。

（※佐藤さんが使用している殺菌剤を知りたい方は、九重文化センターまでお問い合わせください）



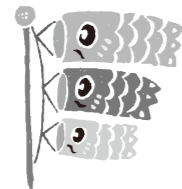
天狗巣病に罹ったサクラ

幸せになろうね



No.297

きせき 奇跡



五月晴れの空を見上げると、鯉のぼりが自由に風に舞っています。

「滝を登り切った鯉は竜になる、困難に打ち勝って大成する」という意味からたくましい鯉のように、子どもたちが元気に大きくなることを願う意味が込められています。

5月5日は「子どもの日」。1948（昭和23）年に祝日法が制定されました。

祝日法2条によれば、「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」お休みの日と決められました。子どもを大事に思っはじまった「子どもの日」です。母子の健やかで豊かな生活を願いたいものです。

♪ 背くらべ ♪

柱のきずは おとしの 五月五日の 背くらべ
ちまき たべたべ 兄さんが 計ってくれた 背のたけ
きのうくらべりや 何のこと やっと羽織の ひものたけ

この曲は、大正8年に作られた歌です。なつかしい歌です。

むか〜し私が子どものころ、家の柱に名前とするしを付け成長を祝ってくれた両親の愛情を感じます。

「奇跡」とは、常識では考えられない神秘的なこと。人間として、この世に生まれる確率は、爪の上に砂を乗せるほどだと言われています。この世に生まれることは奇跡です。そして、赤ちゃんは、親を選んで生まれてきます。子どもたちを愛し、育てていきましょう。

子どもを取り巻く環境は、虐待、いじめ、体罰、子どもの貧困などの問題があふれ、大変深刻な状況にあります。さらに、子ども同士の「ネットいじめ」インターネットや携帯電話を悪用した行為も大きな社会問題となっています。

子どものSOSを見逃さず、成長・発達を見守りましょう。

「大切ないのち」この時代に生まれ、生まれてきた使命を感じ、いのちある限り、精一杯生きていこうと思う日々です。 九重町隣保館人権啓発指導員 安藤千恵美



町長コラム

Vol.16

とびらをあけて

九重町長 日野 康志

今年も、風薫る春の季節があつという間に通り過ぎました。桜もシャクナゲも例年より2週間ほど早く、きれいに咲き誇りました。しかし、昨年同様花見で一杯とはいかず、寂しい季節を過ごされた方も多かったと思います。

感染症や災害復旧などの話題は、これまでも報告して参りましたので、明るい話題を3つほど提供します。

まず1つ目として、4月23日と24日に行われた大分県での聖火リレーでは、18の市町村で無事に聖火を繋ぐことが出来ました。九重町では、観光名所の大吊橋で開催され、観客の人数制限が行われたものの、天候にも恵まれて6人が200mの区間を繋いでくれました。3区では、歌手で九重町に馴染みの深い芹洋子さんが、最終の6区では、オリンピックに3度出場したホッケー女子の石井（旧姓岩尾）幸美さんがランナーとして参加して頂きました。2020東京五輪・パラリンピックが開催さ

れ、平和の祭典に相応しい大会になることを願っています。

2つ目として、九重町出身の落語家であります三遊亭好二郎（本名河野洋平さん）さんの昇進公演が5月2日に九重文化センターで開催されました。九重町では初めての落語家でもありまして、師匠の三遊亭兼好さんや玖珠町出身の三遊亭鳳志さん、三遊亭萬橘さんやマジシャンの伊藤夢葉さんが特別ゲストとして昇進披露公演に花を添えて頂きました。まだ31歳という若さでの昇進です。将来が楽しみです。後援会も出来ましたので、九重町の宝として皆さんで応援しましょう。

3つ目として、コロナの影響で2回延期した成人式が、ようやく開催出来ました。85人の成人者のうち40人の方が参加して頂き、参加出来なかった人にはZOOMでの参加を呼びかけました。緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が一部の都道府県で措置されている中で、成人者の皆さんや保護者の皆さんより「成人式を開催してくれてありがたかった」「一生の思い出になる、感謝している」などの言葉を頂き、実施して良かったと思っています。

人生は山あり谷ありと言いますが、良いことも悪い事もあります。感染症では、ワクチンという希望も見えてきました。多少時間は掛かりますが、必ず皆さんが接種できますので、安心して待っていてください。大切なのは、焦らず希望をもって前向きに、我慢強く歩くことだと思います。町民という大切な仲間がいるのですから。